

第34期 報告書

平成25年4月1日 ▶ 平成26年3月31日

証券コード：7575

...for patient comfort.



JLL Japan Lifeline

主要連結財務データ

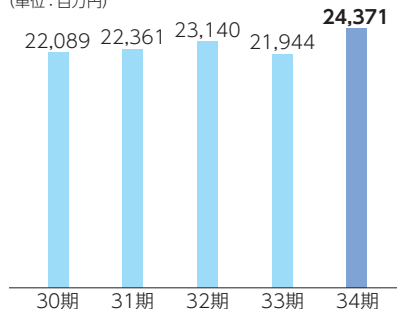
Financial Highlights

当期決算のポイント

- ・ 売上高は新商品等の寄与により前期比11.1%増加
- ・ 営業利益は販管費増を大幅に上回る売上総利益の増加により前期比57.4%増加
- ・ 投資有価証券評価損等の特別損失を計上
- ・ 子会社3社を新たに連結子会社化

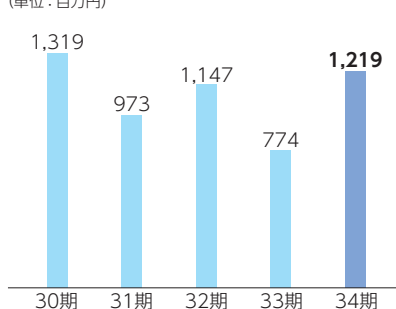
売上高

(単位: 百万円)



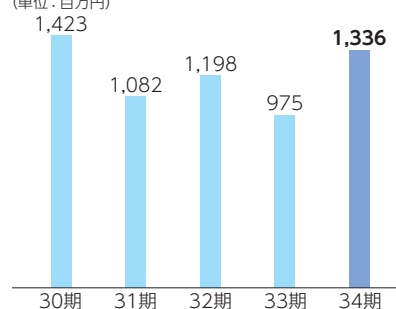
営業利益

(単位: 百万円)



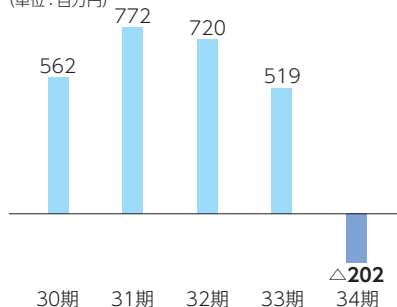
経常利益

(単位: 百万円)



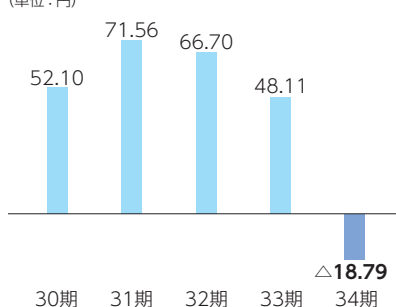
当期純利益

(単位: 百万円)



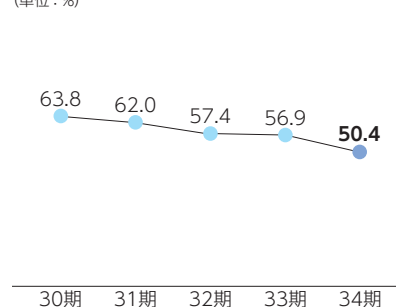
1株当たり当期純利益

(単位: 円)



自己資本比率

(単位: %)





トップインタビュー

Top Management Interview

ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当期におきましては、新商品を中心として販売が好調に推移した一方で、取引先の株式に対する評価損等の特別損失の計上により、最終利益段階におきましては損失を計上することとなりました。

当社グループといたしましては、販売活動に一層注力するとともに、新商品の早期導入および普及に努めることにより、業績の向上を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介

Q

当期の業績はいかがでしたか？

A 販売面におきましては、心臓ペースメーカの新商品の導入が遅れていることによりリズムデバイスの売上高が前期に比べ減少したものの、自社製品である心腔内除細動システムや新商品のステントグラフトが好調に推移したことから、売上高は前期に比べ11.1%増加いたしました。

利益面におきましては、収益性が高い自社製品の売上構成比の上昇により、売上総利益率は前期に比べ0.9ポイント改善いたしました。また、販売費及び一般管理費において研究開発費や新商品導入に係る薬事関連の費用が増加したものの、売上総利益の増加により費用増加の影響を吸収したことから、営業利益、経常利益ともに増益となりました。

た。

その一方で、当社が国内において製品導入の準備を進めている海外医療機器メーカーの株式に対する投資有価証券評価損および同社への貸付金に対する貸倒引当金繰入額を、特別損失として5億6千3百万円計上したことにより、最終利益段階におきましては2億2百万円の当期純損失となりました。

Q

品目毎の販売状況について教えてください。

A リズムデバイスにおきましては、MRI(磁気共鳴画像)検査に対応した商品の導入が他社に比べて遅れていることから、心臓ペースメーカ関連の売上高が前期に比べ減少いたしました。現在、来期末の上市を目指し、

MRI対応ペースメーカーの導入準備を進めております。

EP／アブレーションにおきましては、自社製品であり、オンリーワン製品でもある心腔内除細動システムが広く普及したことから、専用カテーテルである「BeeAT(ビート)」の販売数量が増加いたしました。また、昨年5月に国内に初めて導入された高周波心房中隔穿刺システムは、従来は治療が困難であった症例にも対応が可能であり、より安全性も高いことから医療現場への浸透が進んでおります。

外科関連におきましては、昨年5月に発売した胸部用ステントグラフト「RELAY Plus(リレイ・プラス)」が血管追従性の高さや、的確な留置を可能とするデリバリーシステムにより高く評価され、販売数量が伸びました。さらに、生体弁「Mitroflow(マイトロフロー)」や人工血管「J-Graft(ジェイ・グラフト)」につきましても、好調な販売実績となりました。

インターベンションにおきましては、新製品を導入した末梢用ガイドワイヤーの販売数量が増加したものの、冠動脈用の製品は競合製品の影響により、前期に比べ販売数量が減少いたしました。

また、バルーンカテーテルにつきましては、既存商品の販売数量が減少しましたが、本年4月より自社製品である「canPass(キャンパス)」を導入したことから、販売数量の増大に努めてまいります。



バルーンカテーテル「canPass」

Q

**新たに連結対象となった
子会社について教えてください。**

A

従来、連結対象ではなかった子会社のSYNEXMED (HONG KONG)LTD.および同社子会社である心宜医療器械(深圳)有限公司(以下両社を合わせ、SYNEXMED社)ならびに株式会社ハートブレン(以下、ハートブレン社)が、当期より新たに連結対象となりました。

SYNEXMED社は、これまで当社のガイドワイヤーを中心に製造してまいりましたが、自社製バルーンカテーテル「canPass」の発売に伴い製造の本格化が見込まれます。

また、ハートブレン社は、AED(自動体外式除細動器)の販売等を目的として設立した子会社であり、来年春のAEDの販売開始に向けた準備を行っております。

Q

来期の見通しはいかがでしょうか？

A 本年4月に医療機器の公定価格である保険償還価格の改定が行われ、当社が取扱う商品全般にわたり価格が引き下げられました。当社グループといたしましては、収益性が高い自社製品の拡販に努めるとともに、高周波心房中隔穿刺システムや胸部用ステントグラフト等の新商品を中心に販売数量の増大を図ることで、保険償還価格の下落による影響に対応してまいります。また、本年夏には子会社であるJUNKEN MEDICAL社の、オンリーワン製品であるオープンスtentグラフト「J-Graft オープンステントグラフト」の販売開始を予定していることから、業績への寄与が期待されます。

■ 2015年3月期通期業績予想

売上高	25,539百万円(前期比 4.8%)	▲
営業利益	1,076百万円(前期比△11.7%)	▲
経常利益	1,081百万円(前期比△19.1%)	▲
当期純利益	491百万円	▲

Topics

オープンスtentグラフトの
薬事承認を取得

国内初となるオープンスtentグラフト「J-Graft オープンステントグラフト」の薬事承認を本年1月に取得いたしました。



「J-Graftオープンステントグラフト」

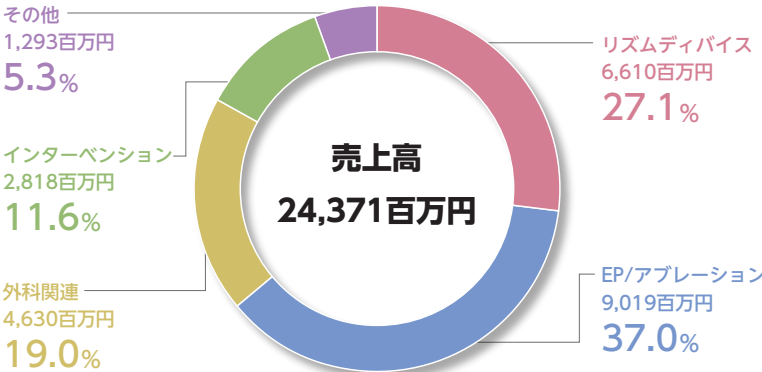
オープンスtentグラフトは、胸部の大動脈瘤や大動脈解離などの治療に用います。網状のワイヤー（ステント）に人工血管（グラフト）が縫い付けられた構造をしており、収縮した状態で大動脈内へ挿入し、治療部位にて拡張し留置します。従来の人工血管による治療方法に比べ、開胸範囲を小さく抑えられることから、患者様の身体的負担の軽減や、手術時間の短縮化が期待されます。

本製品の開発から導入までには、国内において治験を行うなど、長い期間を要しましたが、本年夏に販売開始となる見通しとなりました。本製品の導入により、さらに幅広い医療現場のニーズに応えることが可能となります。

品目別売上高

Sales By Product

当社では心臓循環器領域の幅広い疾患に対応する医療機器を扱っており、国内外のメーカーから仕入れた商品のほか、自社グループ製品としてEPカテーテル、アブレーションカテーテル、ガイドワイヤーおよび人工血管等を販売しております。



リズムデバイス 不整脈を治療する 植込み型の医療機器を扱う

売上高構成比
27.1%

主要取扱品目

- 心臓ペースメーカ
- ICD (植込み型除細動器)
- CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカ)



心臓ペースメーカ

心臓ペースメーカ関連におきましては、MRI (磁気共鳴画像) 検査に対応した商品の導入が遅れていることから、販売数量は前期に比べ減少いたしました。また、ICD (植込み型除細動器) 関連におきましては、遠隔モニタリングに対応した商品を導入いたしました。厳しい競争環境のなか、販売数量は前期に比べ減少いたしました。以上により、リズムデバイスの売上高は66億1千万円 (前期比23.8%減) となりました。

売上高 (単位: 百万円)



EP/アブレーション 不整脈の検査や治療を行う 電極カテーテルを扱う

売上高構成比
37.0%

主要取扱品目

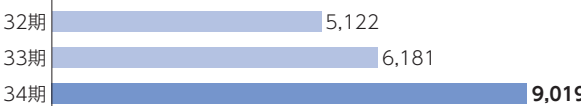
- EP (電気生理用) カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル



心腔内除細動カテーテル

EPカテーテルにおきましては、オンリーワン製品の心腔内除細動システムが広く普及し、専用カテーテルである[BeeAT]の販売数量が増加いたしました。また、昨年5月より販売を開始した、国内初導入の高周波心房中隔穿刺システムにつきましても、医療現場へ順調に浸透しており、同システムで用いられる[RFニードル]の販売数量が伸長しております。以上により、EP/アブレーションの売上高は90億1千9百万円 (前期比45.9%増) となりました。

売上高 (単位: 百万円)



外科関連

血管や心臓の弁を置き換え
治療する医療機器を扱う

売上高構成比
19.0%

主要取扱品目

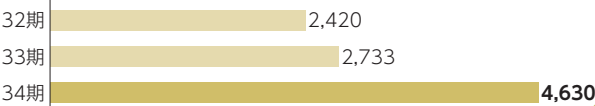
- 人工血管
- 人工心臓弁
- 人工心肺関連商品
- ステントグラフト
- 人工弁輪



生体弁

人工弁関連におきましては、生体弁[Mitroflow]が好調に推移したことにより、人工弁関連の売上高は前期に比べ83.4%増加いたしました。人工血管関連におきましては、昨年5月に発売した胸部用ステントグラフト[RELAY Plus]が高く評価され、短期間のうちに販売数量を伸ばしたことから、人工血管関連の売上高は前期に比べ89.6%増加いたしました。以上により、外科関連の売上高は46億3千万円 (前期比69.4%増) となりました。

売上高 (単位: 百万円)



インターベンション 心筋梗塞等を治療する カテーテル等の医療機器を扱う

売上高構成比
11.6%

主要取扱品目

- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー



ガイドワイヤー (イメージ図)

ガイドワイヤーにおきましては、新製品の導入により末梢用製品の販売数量が前期に比べ増加したものの、冠動脈用製品につきましては販売数量が減少いたしました。バルーンカテーテルにおきましては、競合製品の影響により販売数量が前期に比べ減少いたしました。また、貫通カテーテル[Guideliner]等の新商品を発売し、拡販に努めてまいりました。以上により、インターベンションの売上高は28億1千8百万円 (前期比0.5%減) となりました。

売上高 (単位: 百万円)



その他

連結子会社で販売する
血液浄化装置等の医療機器

売上高構成比
5.3%

主要取扱品目

- 血液浄化関連商品



血液浄化装置

連結子会社で販売する血液浄化関連商品等のその他の売上高は、血液浄化装置の販売数量が前期に比べ減少したことから、12億9千3百万円 (前期比15.0%減) となりました。

売上高 (単位: 百万円)

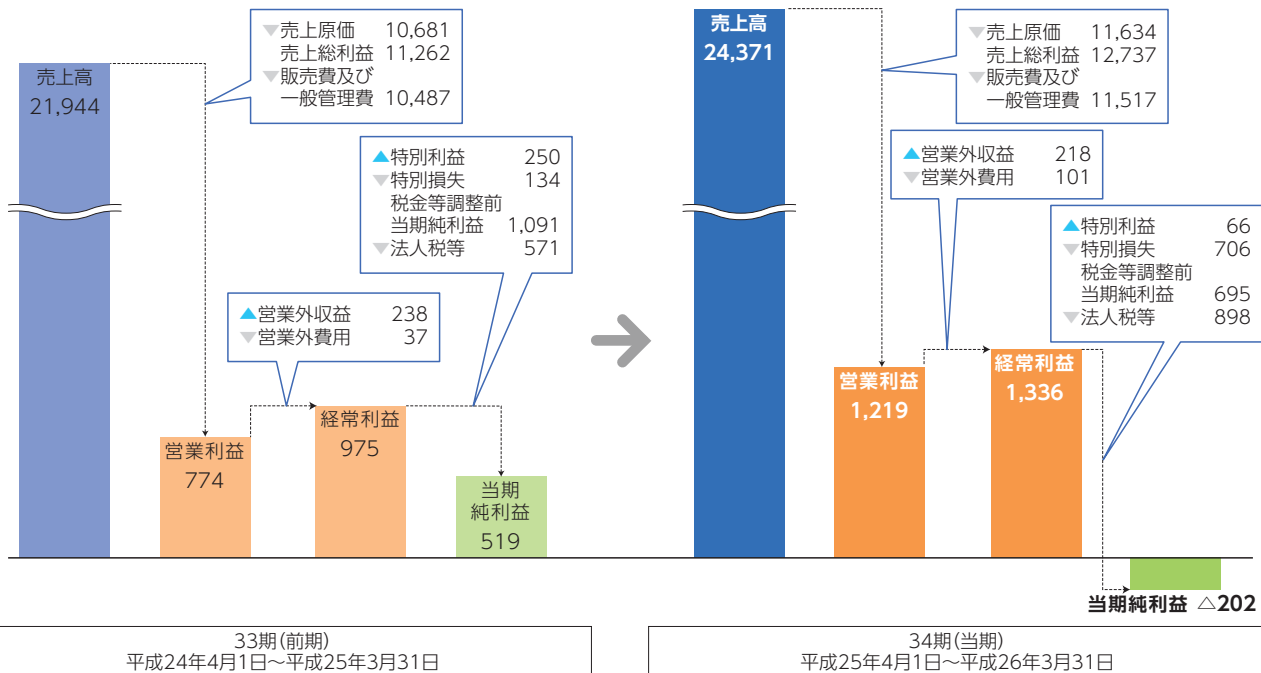


連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



決算の
ポイント

営業利益

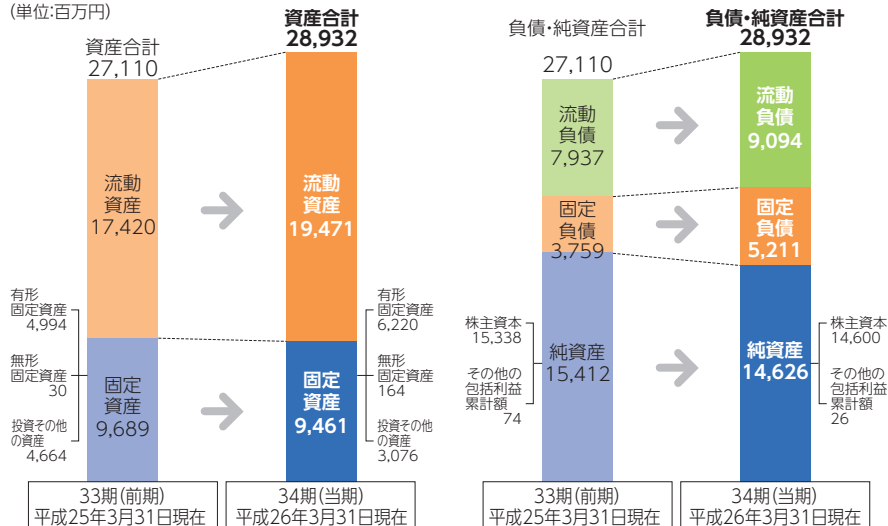
新商品を中心として販売が好調であったほか、自社製品の売上構成比の増加等により、売上総利益率が0.9ポイント改善したことから、売上総利益が前期に比べ増加いたしました。販売費及び一般管理費におきましては、旅費交通費、研究開発費および治験費用等の商品導入に係る費用が増加したものの、売上総利益の増加が費用の増加を上回ったことから、営業利益は12億1千9百万円(前期比57.4%増)となりました。

当期純利益

当社が国内において製品導入の準備を進めている海外医療機器メーカーの株式に対する投資有価証券評価損および、同社への貸付金に対する貸倒引当金繰入額として、5億6千3百万円を特別損失に計上したことから、2億2百万円の当期純損失となりました。

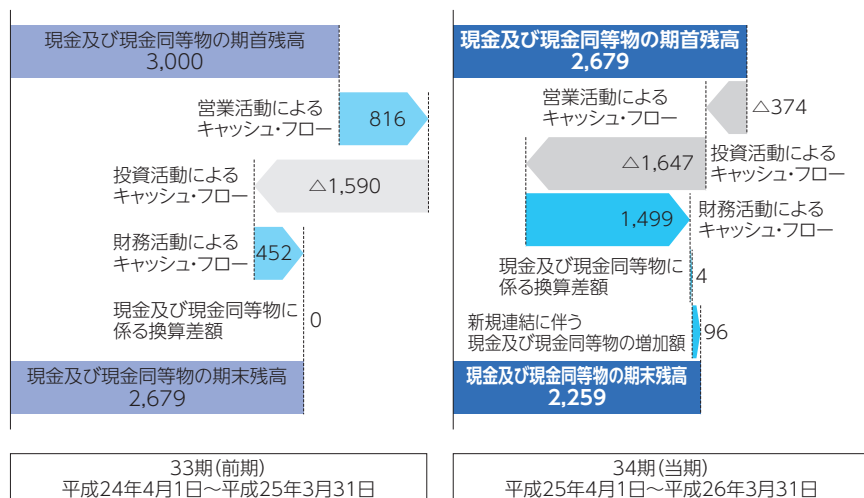
■ 連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



決算のポイント

流動資産

心腔内除細動システム[SHOCK AT]および胸部用ステントグラフト[RELAY Plus]の在庫により、たな卸資産が17億5千8百万円増加したこと等により、前期末に比べ20億5千1百万円増加いたしました。

固定資産

設備投資による有形固定資産の増加が12億2千5百万円、減損処理および新規連結による子会社株式の消去等による投資その他の資産の減少が15億8千7百万円あったこと等により、前期末に比べ2億2千8百万円減少いたしました。

固定負債

設備投資資金を新規に実行したことにより長期借入金が13億2千6百万円増加したこと等により、前期末に比べ14億5千1百万円増加いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

たな卸資産の増加による支出が16億6千4百万円、売上債権の増加による支出が5億5千3百万円となったこと等により3億7千4百万円の支出となりました。

会 社 概 況

Corporate Data

■ 会社概要 (平成26年3月31日現在)

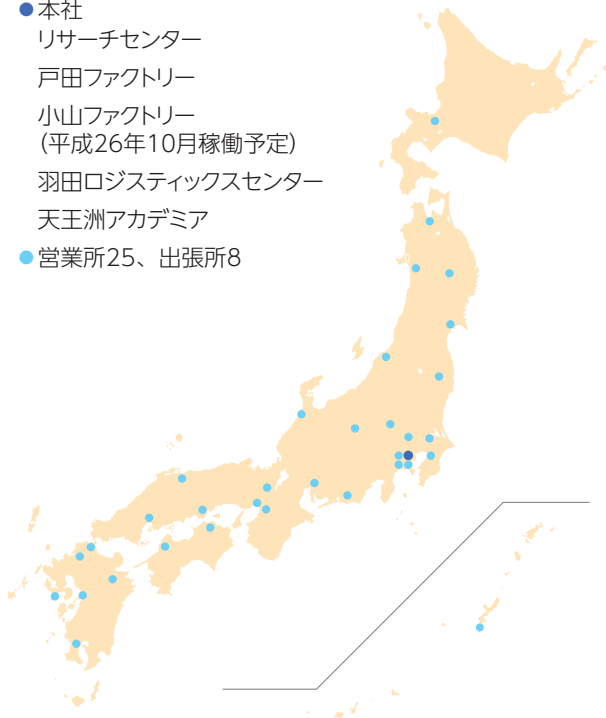
商 号	日本ライフライン株式会社
所 在 地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設 立	昭和56年2月6日
資 本 金	2,115,241,600円
従 業 員 数	連結734名 単体549名
上 場 取 引 所	東京証券取引所 JASDAQスタンダード
連 結 子 会 社	JUNKEN MEDICAL株式会社 SYNEXMED(HONG KONG)LTD. 心宜医療器械（深圳）有限公司 株式会社ハートブレーン

■ 役 員 (平成26年6月26日現在)

代表取締役会長 増本 武司	常 勤 監 査 役 神谷 安恒
代表取締役社長 鈴木 啓介	監 査 役 中村 勝彦
取締役副社長 鈴木 厚宏	監 査 役 浅利 大造
専 務 取 締 役 政次 浩二	
常 務 取 締 役 高橋 省悟	
取 締 役 長濱 岳司	
取 締 役 黒沼 孝之	
取 締 役 佐々木文裕	

■ 事 業 所 (平成26年6月1日現在)

- 本社
リサーチセンター
戸田ファクトリー
小山ファクトリー
(平成26年10月稼働予定)
羽田ロジスティックスセンター
天王洲アカデミア
- 営業所25、出張所8



最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください

<http://www.jll.co.jp>

当社の最新ニュース、製品案内および財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧ください。

✉ 投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



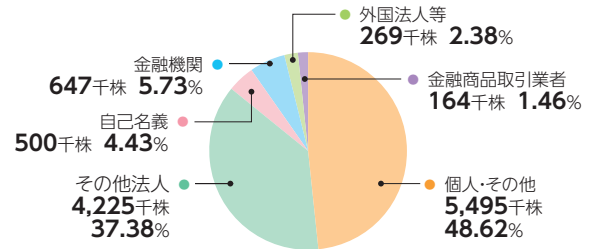
株式の状況 (平成26年3月31日現在)

発行可能株式総数	43,300,000株
発行済株式の総数	11,302,497株
株主数	4,127名
大株主	

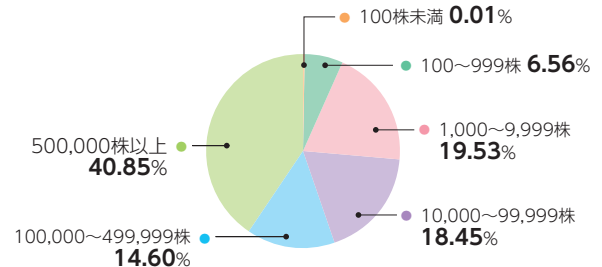
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	3,020	27.96
KS商事株式会社	1,096	10.15
鈴木啓介	331	3.07
増本武司	307	2.85
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	216	2.01
日本ライフライン従業員持株会	188	1.75
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカUNT	135	1.25
上田勝啓	134	1.24
加藤力蔵	120	1.12
長濱岳司	116	1.07

(注) 1. 上位10名に記載していない500,541株を、自己株式として保有しております。
2. 持株比率は、自己株式(500,541株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布

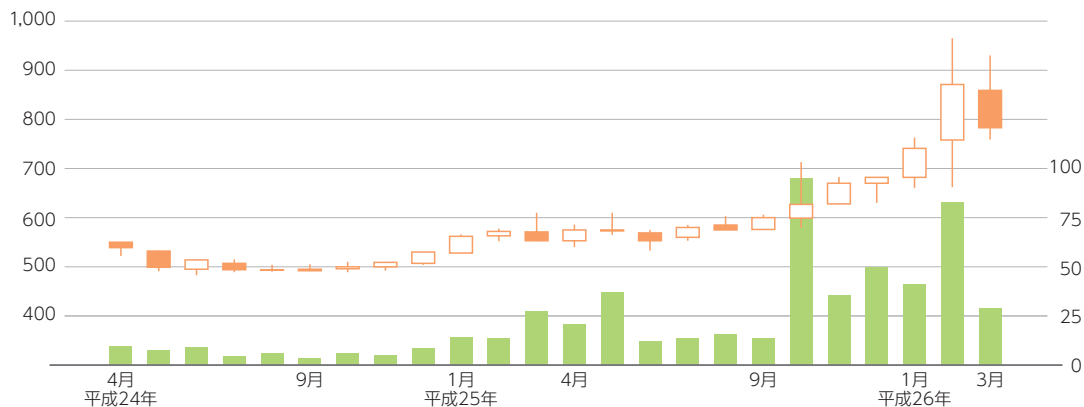


所有数別株式分布



株価・出来高の推移(月足)

株価(単位:円) 出来高(単位:万株)



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL http://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	http://www.tr.mufg.jp/daikou/

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 1.住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
- ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
 - ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 2.未受領の配当金について
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <http://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。